

第五十三日目

師 範：インドでは、イギリスによる植民地支配がきびしく、人々に不満がつのっていました。

イギリスがやとった兵であったインド人はセポイ(シパーヒー)とよばれ、ヒンドゥー教徒やイスラム教徒が多かった。



ヒンドゥー教では牛を食べてはいけないし、イスラム教では豚を食べてはいけない。

ところがイギリス軍が牛と豚の脂を塗った小銃の弾薬筒を使わせるというわさがたちました。

これは口でかみ切って使わなければならないものだったので、猛反発しました。このようなことがきっかけとなって、兵士たちの反乱は各地に広まり、反英運動になりました。この1857年から始まったインドの大反乱は、またの名をセポイの反乱、シパーヒーの反乱ともいいます。

1857年 インドの大反乱がはじまる。

これを覚えましょう。

コン太：では



「銃一発後なみいるセポイは反英に」

「いっぱつ」は18、「ご」は5、「な」は7です。

「インドの人はいつなる独立の国に」

「ひと」は1、「は」は8、「いつ」は5、「な」は7ですね。

かぶとを脱ぎました。



師 範：なかなかむずかしいね。